青雲黎明合併號

發行所
明星學園高等・中等學校
青雲・黎明新聞部

昭和廿四年十一月一日　發行日
編集兼發行責任者　昭谷本
陽子大類
東京都新宿區戸塚町早大内
印刷所　早稲田大學印刷所

明星祭日程表

31日　展覽會（小）小劇場
1日　〃（高）
2日　〃（中）　招待音樂會・國立音樂學校
3日　運動會
6日　演劇會（於家政學院）

創立二十五週年祝

二十五周年に當りて

新聞部代表　柴田芳男

今年一九四九年は記念祭の當り年であつた。所々で祝創立第X周年が演じられているのが目についた。何も今年に限つて記念祭を行う上に都合のいゝ年限が方々で現れたと云うのでなく無暗矢鱈に記念祭をやりたがる最近の傾向の一つの表われであろうが、それにしても今年は大物が多かつた。「聖ザビエル四百年」、「ゲーテ生誕二百年」、「ショパン百年」、「アランポー百年」、「シュトラウス五十年」「ヘボン五十年」等々、それに甚しきに至つては「國定忠治？百年祭」の計畫に乗り出した村があつたと云うのだからやはり當り年には違いなかつたのだろう。

もう一つ大物がある。それは我明星學園創立二十五周年記念祭である。大正十三年呱々の聲を上げてから四分の一世紀、混沌時代から今日の成長時代に至るまで、山多く川多い行程であつたが、發展の軌道に明星學園を乗り入れさせた諸先生方にとつては實に感慨の深いものがあろう。部員一同心から二十五周年を祝うと共に今後のよりよき發展を祈つてやまない。

二十五周年記念祭を迎えて、文化、運動の各方面は戰爭中のブランクから脱却し、例年にない充實したプランで夫々の今日迄の成果を發表し、記念祭を心から祝おうとしていることは大いに喜ばしい。

所で新聞部では、二十五周年を記念して、過去の明星の歴史を簡單ながら編纂し、二十五年にわたる發展の課程を讀者の皆様にたどつていただくと共に、今後の便に供し度いと云う意向で「二十五周年記念號」を發刊することになつた。從來明星學園では沿革史を纏めて編纂しておらず、學園の動向は往時の便覽によつて斷片的に知り得るに過ぎなかつた。そこで歴史の指針が四分の一回轉した今年を期に今日迄の進展經過を一應ここで編纂しておこうと云う考えが高校新聞部に起り、中學校新聞部もこれに同調することになつた。

何分本號編集員は少く、又一同非常に忙しかつたが全力を傾注した。にも拘らず、計畫の時期が稍々遅かつた爲に最初の豫定より幾分縮少せざるを得なかつた。趣旨にそつた完全なものにならなかつたことをこでお詫びしたい。

しかし、創業回顧、組織、校舎、同窓會、校友會、父兄會等の諸項を通じて幾分なりとも明星學園の校風や教育方針の一端を知り得ていただけば編集者一同大いに幸甚と致す所である。

尚本號の發行に當つて種々の點に御協力下さつた方に對して紙上を通じ、衷心から感謝の意を表する次第である。

『永久に存する學校として』

中學校　大類陽子

學園の生活、それは今、考えてみると私の最も理想とした生活なのだ。これ程滿足した學生生活は、明星學園でなければ再び私のそばには訪れない様な氣がする。廿五周年を、中學時代最後の明星祭として迎える事は私にとつて淋しいというよりも、かえつて唯一の喜びが感じられる。と同時に何か尊いものが心の視野に浮んでいる。それは何であろうか？、私を滿足させ、喜びで滿たしたもので、山の仙人や霞、星の精、幸福の青い鳥と云つた様な觀念的なものでは決してない。

この尊いものは、明星學園に於ける雰圍氣及、學園の教育というものを愛し、信ずる所の人々の多大な苦勞の手によつて、素材ながら、立派に個性を發揮しつゝ、廿五年の歴史をおさめた事である。創立當時、それ程貧弱であつた初等部、一部の教室も、現在の通小、中、高校共に一應の校舎を持ち、又文化活動もかく繼續され、現在では自治機關まで組織化された事、それらの適切な、比喩でいろうと思う。もしも「あなたは今何になりたい」かと問われたら、私はいち早く明星タイプになりたいと答えるであろう。前にも後にも、明星學園をよいものとして話したが、これは明星學園が一番よいものでもなく、又何かをまねて無理に私がほめたのでもない。學園の發揮する生活の善良さと私の想像する生活のよさとが一致したからなので、どちらの表現がよいと云うのではないのだ。學園の生活は、私にとつて、愛のマスコットでもあるのだ。學園に於て、たくましい、清らかな、純な生活を私は常に送りたい。そして學園が武藏野のよき學びの宿として、つきる事のない永久に存する長壽延命な道である事を念願して止まない者の一人である。

歴史を生かそう

高等學校　藤井三千代

幾多の人が此の學園で學び、遊び、育つて行きました。そして廿五年後の今日私達も矢張り、此の學園で生活しているのです。

世の變轉は、明星を疎ましさずには置きませんでした。創立當時こんな多人數の、しかも校舎の廻りに、こんなに澤山の家の建つた明星を、誰が想像したでしょう。

物質的に、非常に惠まれない此の學園ではありますが、生徒と先生の和やかなユーワは、家庭生活の延長として生徒を育て、より好い人間として社會に立たせる基礎を作るのです。せまい汚い校舎の中に磨かれつつある眞珠の玉がきらきら輝やこうとしています。

日本のトップを切つての完全な共學も、父兄、生徒の理解の下に實施されました。世の注目の的とされている共學の生活に、私達は責任を持つて答えねばなりません。人間的な自由がみとめられている環境に、男女の人間としての價値が生じるのです。各自の自覺と責任がある限り、彼等に全面的な自由を與えて然るべきだと思います。片端な生活の中に、人間的な向上はみとめられません。世の人の批判、及び彼等の模範の上に立つ此の共學の生活は重大な意義を持つているのです。個性の尊重は、個人を育てます。徒らに試驗にばかりとらわれている他の學校の生活と比して、明星の、のびのびとした個人個人のあり方は、私達の個性を延ばすばかりではありません、個人を向上させるのです。はつきりとした個性を作る事は個人を作る事です。

嘗の中にボツンと建てられた二十五年前以來の明星での皆の生活を想う時、無量の感があります。私達と同じ様な色彩の生活を、二十五年間くり返し、そしてこれからも續けられてゆく……偉大な歴史の力に私達は押し包まれて流れてゆくのです。

明星の發展は私達の發展であり、歴史の發展であります。二十五周年記念の日を迎えて私達は新たに明星のために發足する意氣に燃えます。

窓

某先生の言に依れば明星の中學（舊制は現在の千代田光學のある場所に建つ筈だつたが、當時の東京市の横槍が出て上水の線に建てられたとの事である。なんとこの理由が女學校と近過ぎると云うから呆れる。世の變遷は夥しいもので、今や近いどころか男女生徒が同じ校庭で校舎で暮しているのである。全國でトップを切つたと云われる、明星の共學制は成功したかしないか。今日明星學園の二十五周年を迎えるに當つて、今後の明星の發展の爲に卒業生父兄の注目を浴びているこの問題を、振り返つて見るのも意味深い事ではあるまいか。

◇終戰二年後に先ず新制中學の一年が共學制となり、翌年新制中學、高校、いずれもが男女共學となつてもう二年經つ。當時、恥しがつて猫を被りお淑やかだつた、紳士淑女諸君そろそろ化けの皮を露わし始めた。一般的に見て女生徒は若返つて（？）、男生徒は老けた（？）と云う感じ。これは云い過ぎかも知れないが、兎に角女生徒は以前より活發になつたし、男生徒は幾分大人しくなつたのはたしかだ。主導權を女子が握つている級さえあるのだから。

◇いい點があれば悪い點のあるのはつきもので、一部に行き過ぎた狀態のある事は否定出來ない。「青い山脈」ではないが、あのような事が起らないとも限らない。がこれが果してレディファストであり、男女同權であろうか。◇共學の目的も決してこんなものではあるまい。男性は女性の、女性は男性の美點を生かし合つてこそよいのであつて互に缺點まで眞似る必要はないではないか。共學制にトップを切つた我々はこの問題を成功させるトップにもならなくてはいけない。

富士カラーフイルム
富士寫眞フイルム株式會社

スポーツ用品は
早稲田のノッヅ
省線高田馬場驛前通り
TEL. 九段（33）2621

橘秋子バレー團
生徒募集
日本文化のホープ
バレー！
よきバレリーナは
熱心に
組織的に養成する
バレー團から
生れます
東京都港區芝田村町
觀光ホテル・ホール
電話銀座（四八三三）（七五五四）

最良の品質
最低の値段
衆望の美肌クリーム
取扱商品
肌を若々しく美しい
素晴らしい原料の効果
的な美肌は
やさしい純潔
クラブ美肌クリーム
中山太陽堂

25周年を祝つて

父母と教師の會　神田五雄　長

今年もまた爽やかな武藏野の秋が訪れて來た。木犀の花が散り、栗の殼がはじけ、そして柿の實が色づく頃になると、私はいつも明星學園に對する親しみを新たにし、想出を深める。運動會を通してである。わらうことなかれあの運動會にこそ、他には見られぬ明星そのものの自然の姿が現われているのである。中學校もなければ女學校もない、附近には家も殆んどなく、ただ松林と畑があるだけ、昔ながらの武藏野その儘の姿の中に、小さい校舍がポツンと一つ建つていたにすぎなかつた。

併しそこに學ぶ子供等は幸福であつた、彼等は奔放自在、何の屈託も心配も持つ必要はなかつた、世の中は平和であつた。井之頭公園から上水にかけての廣い地域を我物顏に獨占したのも彼等であつた、自然の子としての生活を、野性的にまで滿喫したのも彼等であつた。公園の中に安住を樂しんでいる蛇を捕え、それを燒いて食べたりしたという傳說ならぬ傳說を殘したのもその頃のことであつた。

その明星學園も今や高等學校を持つようになつた、その當時の腕白生徒の中から、今は澤山の立派な先生が出ている。そして創立當時から苦心慘憺經營の任に當つて來た古い先生を助けて、學園をもり立てている明星は成長したのである、今後も立派に成長する、草創當時を顧みて無量の感に打たれるも私一人ではあるまい。

明星學園の教育方針は「自由」と「個性尊重」に出發したものだと私は解釋している。他の一般の學校では、どこにも見られない革新的な教育精神が赤井前園長を中心とし、先生、生徒そして父母を貫く完全な理解を基底として流れ、それが渾然一つのものにとけこんで成長していた。教育界に於ける一つの驚異であり革命であり、進步的な教育者並びに一般人士の視聽を集めていたことを私は知つている。校舍こそ貧しけれそこには靜かながらも、高い理想の光が燃えていたのである。

併し悲しむべきは戰爭であり、戰爭を指導した全體主義的思想であつた。祖國を亡ぼしたと同じ意味において、教育をも一擧に踏みにじつてしまつたのである。學園當局必死の抵抗にも拘らず、生れながらにして持つていた教育方針も、特色も、大海の彼方に押し流されてしまつた、すべては悲しい運命であつたのである。

併し教育は再び「自由」をとり戻した。明星は大膽に創立當初の精神に立ち歸り得ることになつたのである。それには若い世代の諸君の力に俟つことが非常に多い。勿論行手は險しく、世相はきびしい、若い諸君には未だ理解の出來ぬ複雜な困難も横たわつている。これはひとり學園のみの辿る問題ではないであろう、大きくは祖國の運命にもつながる宿命的な茨の道でもある。併し、それを乘り越え、立派な明星學園を築きあげて行くことに、私は絕對の信を持つものである。

明星學園の創立は大正十三年五月とはなつているがその仕事にとりかかつたのは二月からであつた。

その前年から私はもう井の頭の池の南ばたに住んでいて、そこから東京のS學園に通勤していた。同僚からよく「そんな遠い所からかよつて、時間が不經濟ぢやないか。」と非難とも忠告ともつかぬことをうけたが、そのつど「君達にはわからないよ。」ととり合わなかつた。時間を正しく利用するということは、その人その人の生活の內容によつてきまることで、別に家と學校の距離できめるわけのものでないと私は思つていた。

震災後の燒野原に新しくかもし出された大都市の生活風景には目をおうものもあつたことは敗戰後の今日と共通のものがあつた。

戰勝國という國民の誇りの中に蝕ばまれて行く、荒んだ、頽廢的な時代傾向は純眞な子供の心にもにじみこんでいつた。私達はいたづらな神經の消耗をできることなら拂いのげたかつた。

省線はまだ復舊しないのでともすれば中野から井の頭まで步かなければならなかつた。

電車から遠く近くおくり迎える武藏野獨得の野林—眼にしみるような青麥の流れのしま、一目見るとたんに一日の勞苦の疲れがサラリとふときられた。池をわたつて宿に歸りつく頃にはもう明日への仕事の力が溢れるようによみがえつていた。

私は限りなく井の頭に惠まれ、井の頭を愛して居た。それには因緣がある。私は學生の頃から友達が市中のさかり場をあさりまわるのに對して、足にまかせて郊外の史蹟や名勝を求めあるいた。金のなかつたせいもあつたろうが、趣味のせいもあつた。

成人したらあんなクヌギ井ノ頭公園の東側を橫斷して——橫斷と云つても坂を下り太鼓橋を渡り丘を上つて——、毎日私は學園に通つている。もう過去二十有餘年になる。敗戰前は杉木立がこんもりと茂つていて中央の長橋から仲秋の月を見上げた時など流石に天下の絕景だと讚嘆したものだ。その杉木立も戰爭中には大部分伐採されて橋梁に使つたとも云われ或は棺桶に造られたという變な話も傳わつて洵に殺風景極まるものになつてしまつた。それにしても雨上りの朝など[illegible]の中に包まれた[illegible]遠景は矢張り捨て難いものである。二十年前よちよち步きをやつていた赤ちゃんが、今ではパーマネントで颯爽とハイヒールを運んでいるのに會うと今昔の感に堪えない。店先で乳呑兒を背負つて働いていた母親はもう既にこの世に亡く、背中にいた乳呑兒が店に座つて客に應待している風景など確かに一時代が過ぎつつある事を思わせる。年々歲々花相似人不同である。

水道道路の老駕職が毎朝「先生、今日は結構な天氣ですね」「今晚の町會長の常會に出られますか」昨夜の空襲は大變でしたね」などと呼びかけてくれたが、今はもう亡い。井ノ頭線の踏切附近の家で働いていた老人と毎朝挨拶を交わしたが、最近は一向に御目にかからない。この老人に二・二六事件の雪の朝「世の中は大變ぢやね」と云い返されて面喰つたが思い出される。

僕は朝家を出るのがより早くない。從つて登

井の頭と星

照井猪一郎

前校の仲間では「思い上つた名をつけた。もつと謙虛になれ。」と叱つたものもあつた。それは映畫のスターなどと關聯づけて教育界の明星を以て自負したという誤解らしかつた。私達は私達の永久の導きと希望と安息のシンボルとして星を考えたのだ。

林の中の小さな家にすみたいなどとあてどない空想にひたりながら、こやしだめのそばの緋桃などに見とれた。だから赤井校長が明星をここにきめたのは偶然だつたといつているが私には少しも偶然とは思えなかつた。

學園の名稱は大切な問題だつた。サクラが丘、ミドリが丘×××どれも心の中にうまれ出た氣はしなかつた。

最後に明星學園ということに落ち付いた。これは本當に私にはピッタリした。

私と星とも深いつながりがあつた。というのは前々から私は星のぞきに熱をあげていた。イソップ物語を地でいく形で、空ばかり眺めながら步いて、若松町邊の深いカラ溝におちたりした。物につまづいてよく下駄の齒をとばした。

有難いことに、冬の夜どおし、すべり臺の上にいく晚もいく晚もがん張つてカゼ一つひかなかつた。

純眞な子供達を宇宙の宏大と神祕にふれさせたい。コマチャクれた都會の子に自然の偉大とその攝理の嚴肅さを知らせたい。そのための私の星のぞきであつた。

果てしない武藏野の地平線は低かつた。これを掩う天球はさえぎるものなくひろがつた。滿天の星はすみきつた漠々たる視野の中にふるようにちりばまつていた。

武藏野を象徵するものは森でもなく、林でもなくそれは一糸みだれず靜にめぐる星座であつた。

學園の名——明星——人によつては之を明けの明星や暮れの明星を意味したであろう。はつきりと金星になぞらえたであろう。それでもいい。が、私の心では滿天の星、あるやなしやのヌカ星、目にもうつらぬ遙かなる世界、このすべてを含めて明星のシンボルとしていた。輝く星にも輝かざる星にも、われわれを誘い招く悠遠な謎が秘められているからである。

明星には身分不相應にも早くから天體觀測の望遠鏡が三臺もあるのは、あながち貫つたからだけではなかつた。欲しかつたからであつた。

一つの物を創造するということはたやすくない。その中にはささいなことにもそ之にたずさわつた人々のこまかな意志が働いている。ましてや之を育て上げてゆくことの困難は一そう深く大きい。人はよく創立の苦をたたえるがそれはその時の理想と意氣と情熱で押し通せると思う。むしろそれを今日に育て上げて來た後々の人達の努力を思わねばならぬ。

今日園內に見る一草一木最早存在の意味が不明な物置のすみのガラクタ道具、あのものこのものすべては二十五年の時の流れと人の力を無言に物語るものであろう。

ゴーイング・マイ・ウエイ

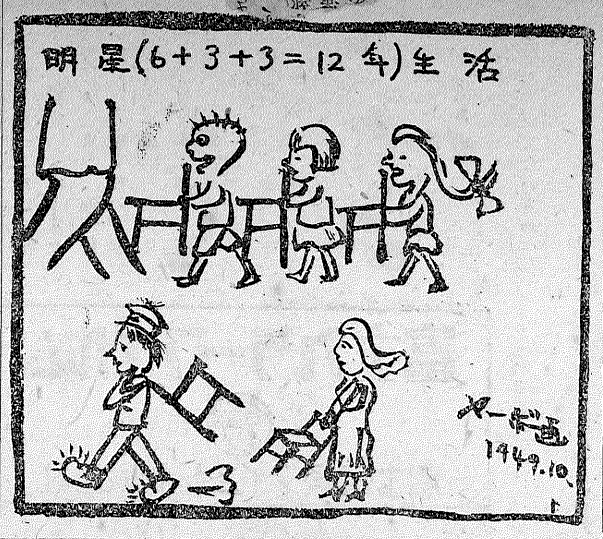
上田八一郎

途中で誰かに話しかけられると一分間でも二分間でも非常な影響を蒙ることになる。僕の家から約千八百米突、晴の日は十八分、雨の日は二十分を超える。丁度朝會に間に合う樣に家を出るのである。生徒の母親などに出遭つて「うちの子供は近頃ちつとも勉强しませんが、あれでよいものでしようか」など聞かれると、イエス、ノーだけでは申譯がないのでつい少し色をつけて話すと五分位は直ぐ飛んで行く。氣が氣でない事が多い。それに反して歸りは至極のんびりする。步調もゆつたり、時間に制限されず、完全に自由の天地を持つ事が出來る。あの葉の色は中々よいねなどと連れの者としやべる餘裕も出て來る。僕は普通一人で歸る場合の方が多いが、空想が空想を生み、大統領にもなつて見たり、文部大臣にもなつて見たり、巴里のエッフェル塔にも上つて見たりたそがれの維納を想像しても見たり、中々愉快である。どの道を通つたかも忘れている。井ノ頭線の踏切には遮斷機がなくてベルが鳴ることになつているが、空想の連續はそんなベルの音など完全に拒否する。「ああ危い」と思つた事が一、二度ある。どうもあの踏切は僕にとつては魔の踏切となるかもしれぬと思つた事もある。しかし最近は大統領の維納を想像するようなことは全然ない。もつと現實的な痛切な事を考えながら步くのである。生徒がもう少しガラスの事を考えて呉れぬものか、生徒の服裝を整齊の形裝をとつてくれるか、少し態度がもうすこしだろうか、男の子の頭髮のあの恰好は一體何だ、などと連想が連想を生み一緒に行くのである。

以前は朝など赤井先生と一緒になる事があつたが、先生は獨りで步くときには必ず何か歌つてわからぬが何か歌つてわからぬが時々拍子をとつて右手をさあ洋樂ではなさそうだつた。

話しかけた處「毎年のことながら雪除けは大變だ」と云い返されて面喰つたが思い出される。

明星(6+3+3=12年)生活



ヤーボ画 1949.10.

資生堂クリーム

全國各地の資生堂チエインストア並に有名百貨店にあります。

サロンアルバム

懷しい記念に！

學びの舍で撮つた若い日の姿はなつかしい思い出であります。その思い出を——眞紅の表紙で、クリーム色の臺紙——藝術的な豪華アルバムに納めましょう

八ツ切用

25 cm×24 cm　臺紙36面

定價　665圓（送料共）

玄光社

武藏野局區內吉祥寺618

◁告豫刊近▷

並河亮譯

★ソー・ビッグ　ピユリツツア賞作品　E・ファーバー作

★エレミヤの哀歌　ピユリツツア賞作品　U・シンクレア作

★世界の終り　U・シンクレア作

★大ワシントン傳　第二卷　苦腦の時代　W・アービング作

★ジャズ物語　R・ゴーファン作

新刊書籍
雜誌
地圖
學習參考書
御用はいつでも

公園通り

岸岡書店

吉祥寺2019

H. SAITO'S ENGLISH GRAMMAR

大名著　三名著

齋藤秀三郎著

英會話文法（改新版）　價200圓　郵35圓

初等英文典　價160圓　郵18圓

新標準英文典　價上180圓　價下220圓　郵35圓

東京神田一ツ橋二ノ三　振替口座東京10342

吾妻書房

新刊圖書
地圖・雜誌
學習參考書

光陽館

明星學園
教科書配給店

驛前通二〇七三
電話二五二七番

學園の創業時代

創業

井の頭公園南の麥畑即ち現在の校地に、學園の創業者赤井米吉氏が照井、山本兩氏との間に、我々の明星學園を創立しようと云う企てが起きたのは、大正十三年二月の終りであつた。

驛へは八丁、北には井之頭公園の森が茂り、あたりは人家三軒あるのみであつた。

同年三月十六日、當地に『明星學園建築敷地』の立て札は赤井、照井、山本三氏によつてたてられた。學園の名稱は三氏の間で種々と議せられていた。「啓明」「黎明」「三鷹」「井の頭」「櫻が丘」等が考えられていたがいずれも滿足されてはいなかつた。然し井の頭の森の夕暮でその美しい星の光に驚かされ、これから「明星」の名が浮び出てこれに決つたのである。心の明星、人類の憧れる理想の明星、それを慕つて見つめ、伸びよう、登ろう、頑張ろうの意味であつた。マークもこの意味で松岡政雄氏に意匠を頼み銀の圓い枠に赤の五出の星をはめたものが出來上つた。このマークの銀圓は宇宙を表徴し、完全を示すもので、星は理想を表わし、赤は人間の至情を意味するものであつた。

同年三月二十四日學童の募集を始めた。これは學園創設の趣意書と兒童募集のチラシを新宿以西の中央線沿線の郊外住宅に配り募集を公けにした。この趣意書は次の様なものであつた。

『幼き日の印象は人の生涯を支配します。幼き者の教養について社會が本當に覺醒せぬ内は民心の作興も思想の善導も庶幾されません。勿論これは家庭社會の凡潮と至大な關係のある事で、獨り小學校教育でのみの仕事ではありません。然し現代の世相をなした一半の責は小學校教育も背わねばならない。されば我子の行末を案ずる者、社會の前途を憂うる人は先ず小學校教育の改善を計らねばなりません。輝く日光新鮮なる空氣、滋養に富む食物、足等三つは凡ての成長の要件です。幼い子の成長も亦そうです。塵埃の巷に建てられた學舎、數十人をスシ詰にした教室はこの要件を滿たし得ません。郊外へ！——陽の光を全身にあび清らかな空氣を胸一杯に呼吸する郊外へ、幼い者を救い出さねばなりません。

輝く理想、新鮮な校風、生命に充てる教訓、この三つは魂の成長の要件です。神と自然と人間が與うる聖い教えを燈とし、溫い友情の風を呼吸し、至高の理想へ向つて幼い魂は伸び上るのです浮草の如く轉々として。定まらぬ教師と點數と競爭で驅られる兒童の教育では幼い魂の伸びようはありません。新しい教育へ幼い者を救い出さねばなりません。斯樣な考えの元に井の頭公園に一千坪の大地とささやかな學舎を得て、友情に燃える私達が隱れたる後援者に勵まされて新教育の樹立を企てました。どうかこの芽生えがよき成長を遂げます樣御援助を願います。』

開校豫定は四月廿日、募集人員は、一・二・三年各級男女十五名づつ、授業料は六圓であつた。四月廿日と開校日を置いたが、實は校舎の建築契約がやつと出來たに過ぎず、大工小屋が出來て釘のひびきが聞え出したのは四月廿一日だつた。そこで五月一日父兄を集めて五月十五日開校と云う事にして、五月五日に上棟式十四日にはコケラの屋根だけ出來た。未だ床も張れず腰板も出來ていなかつたがもうこれ以上延期は許されないので翌日開校式を擧げる事にした。

開校

五月十五日、雨の中で開校式をあげた。生徒は一年七人、二年五人、三年九人、總勢廿一人、職員四人の學園はこうして始つた。雨中辛じて創立の趣旨を繰り返して來賓澤柳博士の挨拶を終えて式を閉じた。記念撮影も記念植樹も當日は出來なかつたのでその翌日行つた。記念植樹は職員兒童各々一本づつ公孫樹を植えた。伸びよ、茂れよ、星を蔽えよ、私達の生命を表して。記念撮影も翌日には行われ校庭で一枚、森の中で一枚撮つた。

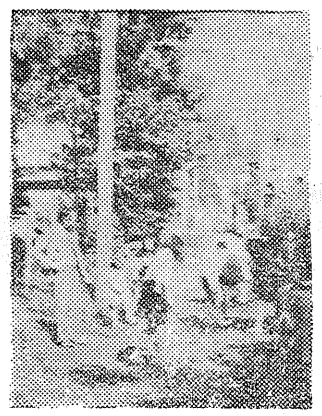
受持は三年が山本氏、二年が照井氏、一年が照井げん氏であつた。授業は校舎が不完全だつた。天氣のよい日には大抵森の中に入つて行われた。校舎は大工に忙がせながら、職員は生徒と共に校庭の手入れをして正面に土手が出來、周圍に大きな木が植えられ學校らしくなつて來た。自然科の第一歩はこうして自分達の家の爲になつたのは意味がある事だつた。

こうして六月廿一日校舎も完全に落成したので、兒童、父兄と知己の人々と共に落成式と開校披露式をあげた。

午後一時頃から來會の人々を迎える自動車が吉祥寺驛と學園との間を幾回も往復した。

午後二時式は開かれ、赤井氏の挨拶、澤柳博士の講演、「來賓祝辭」を福田北多摩郡長、羽仁もと子女史、小瀬松太郎氏、父兄總代祝辭は中川景輝氏、終りに生徒の唱歌があつて式を閉じた。來會者七十。當時の三鷹の村には珍らしい集りであつた。

開校當時の敷地は一千坪落成した校舎は百九坪、三間四間の教室五つと事務室、小使室、物置、便所で、の工費は一萬二千圓であつたと云われる。



修改路道の生學中

高等學校の現狀

船山博彦

今年學園の二十五週年を迎えて高等學校の方は、上田八一郎校長のもとに、多湖、杉山兩先生を始めとして、古鋭、新進二十五名。うち專任十一名、兼任十四名という大世帶になり、此の四月からは年來の歷史的な教員室でば入り切れず、隣りの普通教室に移轉の止むなきに至つたという樣な發展ぶり。生徒の方も二五九名おり、それだけ昔に較べて校舎も增築されたわけであります。

併し、それに反比例して困つたのは運動場の減少です。校舎が殖えればその分だけ運動場は減る道理で、それに加えて六・三・三の新制度のために、生徒の年齢は增し、身體も大きくなり人數も增したので、いまや校庭不足の惱みは深刻です。シールス軍來朝の昨今野球熱は非常なもので、明星に於いても、生涯の活動を野球に捧げようと固い固い決心をしている者も數名に及ぶという現狀では、日ごとのガラス破損もまた止むなき社會狀勢でしょうか？

ただこの點昔と違つて男女共學實施以來二五九名中約半數は女子なので、男子は事實上一人で二人分弱の運動場利用が可能なことか特徴的です。はつきり言えば、女子はつつましく男子に運動場を占領されている形です。併し學校當局の惱みは、最近女子がこの不當な壓迫に目覺めて來て、時を見ては不滿を申出て來る樣になり、三十週年迄には是非とも「ドンドン山」を買收しなければならないとの決心を固めさせられています。

尙女子のためにはその施設があまりにも不備、今のところ專用の便所が一つあるというだけで他には何等その特性を考慮しての施設が無い狀態です。男女共學を實施して見て始めて女子のための施設には何が必要かを自覺させられた次第で、今までの男子は如何に女子を問題外にして置いたかという證據歷然です。男女同權という理想を體得するまでには、我々はその生長過程に於て一應原始以來の歷史を繰返す樣です。一般に高等學校時代に於いては、男子は力を振い、女子は辯舌を振います。この原則を意識しないためか、現在は生徒間に色々の無理解不滿もある樣ですが、同權の理想及び男女の十分な理解は男女が離れていたのでは不可能と思われますので我々は共學に必要な施設の擴充を計り、あくまで共學を實施してゆく豫定です。尙又共學にあたつては教師の態度ももつと再考されねばならないと思われます。それは女なるが故に、或は男子なるが故に、同一事項に對する教師の接し方が違う場合が不用意の間に出て來る事があるのです。こういう事に關しては生徒は如何に鋭感であるか驚く程です。勿論現象的には意識して異つた態度をとらねばならぬ場合もあると思いますが、今までの習慣から男子優位なり、女子優位なりが教師の性別により無意識に現われることがあるのは覆い難い事實だと思います。共學實施の場合はそれだけ教師として備えねばならない能力の一つとして新たなものが加えられねばならないと思い、お互いに努力している次第です。

終戰以來、鋭意創立當初の教育理想の實現に向つて努力して居りますが、あの壞滅的打擊は未だに十分には復し得ず、例えば參考資料の皆無に近い程の現狀は非常なさまたげをして居ります。「一册でも多く、必要な本を！」我々はこれを切望しております。明星が當初以來如何に生徒の個性に應じた教育を深い愛情をもつて行なおうとしているかはすでに御承知と思います。高等學校の教員の中には七名の明星出身者を數えております。これは決して出身者で固めようという樣な狹い意圖をもつているのではなく、明星は如何に——人がその個性に應じた社會活動を充分に發揮出來る場所を造るか——ということに努力して來た結果の現われだと見ていただきたいと思います。

すでに述べました樣に現狀は不完全なところが多分に指適出來ます。併し我々の意圖しているところを御理解願い、皆樣の心からの御協力を懇請する次第であります。

民主精神に昂まる中等部

——中等部生活の一班紹介——

T生

現在の中等部は一年は二學級で九九名、二年は三學級で一四二名、三年は二學級で一〇〇名、先生は專任十三名講師四名、學級數に比して不足のない陣容である。

高等部初等部に比して特別異色がある譯ではないが「兒童期にサヨナラした青年前期に屬する生徒を以つて構成されている點が高小二部と特に異る所である」とは先生のお說。

その樣な構成を基盤として考えられる指導——吾々から言えば學習の——要點は自主的活動の基礎態度の確立・自覺的に學習する態度の樹立、體位向上、保健衞生の自律性を把握すること等である。

自主的活動の練成については、學園の教育目標について「社會のすぐれた形成者として云々」とあり、また教育指針には「自主的生活の體驗により、民主主義への確信を把握させる」とある線にそつて、その達成を目指しているわけである。自主的活動の練成の場として吾々には學園會という組織がある。この學園會という名稱は吾々の女子先輩が女學校時代、即ち戰時中名乘つたもので、國民の一人々々が骨髓に徹して忘れられない軍部萬能の嵐のまつ只中、學園も動員體制下に組織され、若人の最後のヒユマニティまで奪い上げられつつあつた時、せめてもこれだけはとてひそかな人間群像のかくれ家を作つて、やつと溫かな呼吸をつなぎとめたのが、この學園會であつたのだ。其の間、中傷惡罵の數々に堪えた裏面史に描かれてよい先生、生徒の事歷もあるが、いずれ他日に讓ることにする。

さて、この組織が民主會議の樣式を以つて構成されていることは勿論である。——なおこの組織化に骨折つたのは、現在高一の諸兄姉であつた。——その活動の大略を述べると、最高の決議機關は總會で、大體一學期に二回の割合で開かれる。各學級代表三名宛が學級委員として選出され、計二十四名で委員會を構成して執行部となる。この推進機關、援助機關として、協力委員が各學級に十名宛置かれている。

各學級では每週一回の討議會を開いて委員會へ議案を提出する。委員會では主としてその議案を審議し、特に重大な問題以外の案件は（委員會附託の形で來るから）この會で處理し、重大な問題は審議の結果を各學級に報告して、別段不都合のない限りにおいて學級會ではそれを諒承するという道筋を執つている。この場合重要問題は勿論職員會にかけて頂き、その指示を得ることになつている。

この組織から分岐された機關には週番會があり、日々の行動批判をなし、反省を促すことになつている。

又學園會は各種自由研究部と各種運動部に分れ、日々の正規時間外の自律學習自主的體育運動に各自の個性に應じた活動をしている。

この組織を通じて吾々は何が正しいかを吟味し、日常生活をその正しさに近づけ一致させ、誰もが樂しく生活を高め、よりよい明日の社會を、世界を創造して行く可能性を築こうとするのである。

學習、最もよい學習とは何であろうか、先づ試驗が無くて、而も學習の意義と必要を自覺し、苦しみも樂しみも明日のより良い、より高い、より正しい生活、建設の學習でなくてはならないであろう。しかし實狀はどうであろうか。結局試驗への屈服の域を脫し切つていないのだ。これは正直の告白だ。現在の吾々から試驗を取り去つたら何が殘るだろう。考えて見ると淺ましいものが少くない。眞の明星シップは「ノン試驗每日テスト」でなくてはいけないのだ。即ちいわゆる試驗は全然なくて、而も日々が自らを自らで裁くテストを背負つて精進する所にあるのが理想である。一日も速くこの域に達しなくてはならない。自由研究の時間の樣に各教科學習が行われたらよいのだ。正規時間の方が雜然としていて、自由研究の時間の方が眞劍である所に大きな教訓があると思う。

體育方面は强步鍛練、每日の體操、各運動部の活動で相當な成果を收めているが、未だ完全とまでは行つていない。併し「今秋の强步で殆ど無事故で相當な强度鍛練を確保出來たことは都下いずれの中學校にも劣らない自信を得た。但し缺席者の比較的多かつたのは實に寶玉に一點の疵を與えたものであつて惜しかつた」とは先生方の異口同音の賞讃の辭であつて、吾々は大いに張り切る張り合いを感じた所である。

祝明星學園創立二十五周年

皆樣每度有難とうお座います

パン
菓子
ビスケット
の御用は
東京都指定委託
井之頭食品へ
三鷹町牟禮四七九
明星學園前

新鮮な…
果物
野菜
の御用は
八百九青果店
明星學園前
牟禮四七七番地

公園のお歸えりに どうぞ
井之頭園喫茶店
吉祥寺二七〇〇

精肉・肉加工品
山口牛肉店
明星學園前
牟禮三八六番地

家庭用品・文具・化粧品
井之頭百貨店
明星學園前

食品・瓶詰類・漬物
三浦漬物店
明星學園前

親切！最新スタイル！
わくい理髮店
明星學園前

新車販賣
修理一般
自轉車はなんでも
小野田自轉車店
明星學園前
牟禮四八九番地

思い出

原田滿壽郎

廿五周年の祝賀行事の明星祭を迎えるにつけ、自分又、發展の歴史の足跡に陶分をされた方々の様に、しげしげ來し方を回想するという様なことが出來ないが創業というものは、何事によらず一通りの苦心ではないと、よく聞く、そして本當にそういうものだと思う、まして私立學校の場合は公立學校の創設とは、全く異つてなみなみならぬその努力には、唯々頭がさがる思いがする。

私共が廿五周年を回想するということは、單に時間の流れの事實に感傷を送り醉するのではなく、創業當時の精神に新らしい息吹を吹き込むということも重要な事ではあるが、自分の内にもう一度、その精神を見直して新しく踏み出すことを約束する事に外ならぬ事と思う。

それはそれとして、私は昭和九年の四月に初等部に着任した。この年十周年記念日が五月擧行された。當時の模様をかいつまんで偲んでみよう。

確に若芽が薫り、新緑が日に映えて學園の庭には鯉幟が悠揚と泳いでいた。

昭和九年の五月十五日、創立十周年の式典は午後二時、三部の職員生徒、兒童二百名の來會者で、文字通り盛會裡に行われて、園長の創立前後の回顧から將來に亙る式辭があり、引きつづいて、何人かの祝辭の中に、足の悪い永井柳太郎氏と、特種のアクセントのある羽仁もと子女史の姿が未だに鮮かに私の記憶にある。續いて五月十八日は、日本青年館で學藝會を公演した。來場者二千名という盛況であつた。關口宇之助先生、照井げん先生の指導の音樂の部に幕を開けて、石井小浪先生の舞踊、つづいて照井猪一郎先生の劇「お地藏さんは知つてるの」「栗畑」を公開した。

尚計畫としては、小學部の兒童劇放送、三部の職員協力の學園教育の全貌を紹介する爲の出版も計畫されたが、これは遂に無期延期された。

尚十五年前の學園の様子は小學部の校舎の前には、井の頭附近の水棲昆虫や、數多の小鳥及び、あひる、鶏、ふくろう、山鳩、兎、猿など教師と子供の中で飼育して居たし、今羽鳥先生のお宅のある所には、花壇として一年から六年生の中で栽培管理をして居つた。

女學部（現在の中學部）の校舎前は芝生で、教室はかつら、けやき、かえでの三室のみで一・二・三生が入つて居り、現在の職員室が四年生、あの狭い圖書室の書庫には五年生が居た。當時の中學校、現在の高校は北側と東側の校舎のみで、雨天體操場も理科室も、從つて西側の校舎もなかつた。

各部のクラスの兒童生徒數は、又こじんまりしていて、多いところが三十人、少いところは十・五六人という小人數、當時の小使さんは今は三人とも、他界されている。

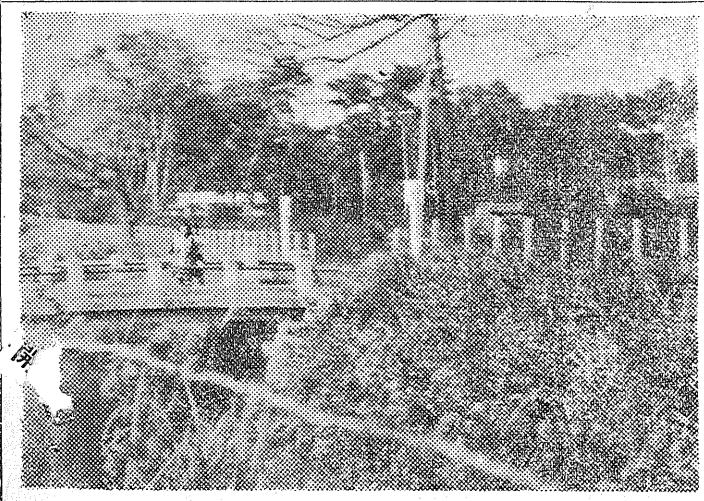
十周年から廿五周年、十五ケ年を回想すると文字通り感慨深いものがある。

恩地邦郎

明星が創立以來、戰爭中でさへも守られていたものが三つあると私は思つている。その一つは個性の尊重であり、次にそのよしあしは別として、反形式主義、それから演劇活動の繼續、その三つは特に關連は少い様に思われるが、生徒達の文化活動には色々の形で現はれている。

中學校の文化活動は、今日の青雲の前身の星雲時代（これはよい名前であつた）の發刊に初まる。第一回卒業生が四・五年生の時のことで創刊號は横武先生の版畫のカットだと覺えている。

戸塚先生も中心メンバーで、たしかシゲッテイー（ヴァイオリニスト）の來朝音樂會の感想をのせていられたと思ふ。横尙先生のユーモラスな文章も私達の印象に殘つている。當時は、謄寫印刷であつたので原紙を書く人に名人がいないと盛にならなかつたので、詩人の五十嵐氏又、角館先生等は、本職はだしのきれいな字を書いて重寶がられた。うまい人がいない時は内野先生がもつぱらうんうんとかかれていたものであつた。その頃はレコードコンサートも時々行われていた。創刊當時から段々と不活發になつて來ていたものが、頂度私が五年、谷井氏（明星の先生としていたこともある。一度出版をやつて社長になり今は講談社にいる）北原隆太郎氏（白秋の令息）それに死んだ弟等が三年の時に、明星ルネッサンスと稱して先づ、星雲時代の一月二・三回の發行から初まり、末光氏等を中心とする演劇研究會の發會版畫集の刊行、工藝家になつた佐藤正巳氏等の中心の美術部の展覽會の開催、霜田氏（前號の青雲でおなじみの東大理學部卒）等科學會等とにぎやかに活動を展開したものであつた。この活動の影響は七・八回生位までは續いていた。劇は初期に脚本朗讀等で初められドンキホーテ、峠（例のシコニッツラ原作のもの）等から何週年記念かに明星スケッチと云う内容をもつた「空と地の聲々」が上演され好評であつた。稚拙な所も多かつたか、眞面目であつたものである。この當時明星ルネッサンスの中心人物達は卒業生としての反動期としては、可成自由主義的な文化グループを作つて、當時の明星會總會をその發表會かと思はしめる様なはりきり方であつた。今では何處でも見られる事なのであるけれどもそれだけに、なつかしいものでもあり、そのグループもあるものは戰爭の犠牲者となり、或は色々な運命の下にちりぢりになつてしまつている事を思うと私にとつても歸らぬ一場の夢とも云える。ちよつとセンチなわき道に入つたが、十回生の頃から、軍教も强化され、その發言もうるさくなり、『學園と云う名は、自由主義であるから變えたらどうですか』等と云う教官もいたり、そうした空氣も段々中學校からうすれて行つた。十二回生が末綱先生（第一回生で、國立出の聲樂家で堀先生の令兄、昭和十八年亡くなられた）を中心に音樂會をやつていたのが最後ではなかろうか。（以下略）



太宰事件以後またきゆうくつになつた

明星へ——★——の近道

吉祥寺から明星に至る道は全く複雜だ、始めての人に教えるときなどは全くこまる。

だから生徒の朝夕通る道も複雜怪奇、全部の者が道なき道を歩いている。だが近頃公園の附近もどんどん家がたつので近道がほとんどなくなつてしまつた。道といえば高等學校の前の道も、玉川上水の堤で正式には地圖にのつて居ないそうだ。道でない所に入口があるので門がないのかも知れない。

一回生　長井安子

どの子も同じ氣もちで育てて來たつもりだつたけれど、長女と二女の性質のあまりにも違うのに、いささか驚きを生じる。

長女は、我々待望のうちに生れ、二女は戰事中父すでに應召中の寂しい家庭に生れた。二人の大反對の性格もこんな事が影響して居るのかもしれない。

幸福そのものであつた長女の生活も、一年そこそこで戰爭にさえぎられ、子煩悩の父親は見送りの驛頭、無心に笑ふ子を抱きしめ、無言のまま私の手にもどし決然として征つてしまつた。この時から子供の心にも、小さいなりに苦勞が芽生えはじめて居た。

明けても暮れても、母子三人きりの生活は、たとえようもなく寂しいものだつた。とりわけ、母親を妹に取られがちな長女は、とても寂しがつた。雨が降つても、雪が降つても、この小さい姉娘は母の背に居る妹を美しそうに眺めながらそれでもだまつてついて來てくれた。若い男性と見れば見知らぬ人でも、さつさとついて行つて仕まう程、この子は無性に父親を慕つて居た。

今年こそは今年こそはと主人の歸りを唯一の頼みに夢中で暮している中に、子供達は幼稚園に上る年ごろとなり、この頃から二人の性格がはつきりして來た。長女はスケールが小さく、二女は男の子にし度いような大膽さと、さつぱりして氣性を表わして來た。この二人の性格は食事の時、遊ぶ時、何事によらずはつきりと表われ、私を樂しませたり、又困らせたりした。きかん坊の二女は、長女が一年に入學した頃、近くの子供からいぢめられ、外に出られずに居るのを見て、『ジュンコノオネエチャマダカライジメナイデ…』と必ず先に立つていじめつ子の居なくなる迄送つて行つたものだつた。長女は病弱であつたせいか、氣むずかしくて困らせたが、二女の方は『傑作孃』の名を頂だいしたほど剽輕な子で、ともすればしずみがちな家庭に何時もわるいの種をまいてくれた。

主人復員して三年餘、我家も七年間の不自由な生活から平和とよろこびを取りもどし、長女はいよいよ家庭的に、二女はますます活潑にのびのびと育つて來た。毎月同じ額だけあたるお小遣も、長女は何時の間にか、こつこつと積み立て、二女はちよいちよい拜借を申込む、自然チャッカリして居るのは長女でありきまえがよくて近所の子供達間に人氣のあるのは二女である。長女は小さい弟妹の代用ママと言われ、三歳の弟と本氣で遊び、只喧嘩するのが二女である。

四人の子それぞれがめいめい獨特の良さを持つて居る。きかん坊で相變らずだだを言ふけれど家庭のよろこびは、子供達によつて造られ、親は子供等によつてはげまされる。

どんな人間に成長するか心配の中にも私の心は樂しい。それぞれの適した道に自由に正しく進んでほしいものとひたすらに祈つている。

學校のおぢいさん

創立から終戰まで井上萬二郎老には隨分世話になつた。五十過ぎまで酒で生きて來た井上老が心機一轉人間らしい生活がしたいから小使室に入れてくれと、卒禮の米屋さんに連れられて來た時には僕も一寸考えさせられた。しかも全然文盲だと云う。しかしどこか純一無雜なものを持つていると云う第一印象を受けたので來て貰つた。十二人の子持であつたが學校には夫婦でやつて來た。先づ假名を勉强した。メモは全部假名書きであつたが、漸次漢字が加わつて來た。それから新聞讀みが始まつた。生徒が先生となつて井上老の語彙はだんだん豐富になつて來た。五・六年のうちにはいつまでつづいて來たことは、新聞が讀める様になつた。そして終に森口先生に『哲學』とはどう云う意味ですかと質問して同先生を驚嘆させるまでになつたのである。昔は物質が豐富で教練服など一寸破れると生徒は捨てて歸つた。それらを奇麗に洗濯して雜巾などにしてくれたので終戰までは雜巾を一枚も買つたことはなかつた。毎日小枝や木の葉を集めて蓄積し、薪を買つたことも極く稀であつた。

今から考えると御伽噺の様である。近頃は鉛筆など落ちてはいまいが、昔は生徒數が少いのに拾得の鉛筆は無數、赤鉛筆で今も僕が使用しているのがある位だ。この老人も死ぬ一週間前に學校に來て、前庭の草取り掃除をやつて歸つたが、最後の御奉公の積りであつたろう。二十年間老人に小言を云つた事もなければ、又不滿を感じたことなど一度もなかつた。

（八一郎）

高等學校
演劇部公演
『吹雪は光る』
1日　學園講堂
6日　政學院講堂にて家
御期待を乞う！

編集後記

◇四月頃よりこの秋にと遠大な計畫をたてていたが、ふたをあけて見ると餘り遠大過ぎて編集同人の豫定したものとは全然離れてしまつた。力量のないせいであろう。然し稿を寄せられた方々のおかげでなんとか花をそえる事が出來た。お忙しい所を本當に有難うございます。よろしく御鞭撻の程を。

◇八頁を企畫したが、金！金！で四頁。學生らしからぬことを云うがこれが現世だろう。

◇御無理を願つた二村鐘氏神田亀代枝氏谷井精之助氏の原稿を紙面の都合で次の機會にゆづることになつたのは申し譯ありません。深くおわび致します。

◇學園では戰後始めての活版、手違があまりに多かつた。アプレゲールの學生達とお笑い下さるな。

明星
廿五周年記念誌
文藝部發行

度量衡器
計量器
建築金物
利器工具
家庭器物
合名會社
イタヤ商店
吉祥寺駅前

キリスト教月刊誌　十一月號
教會學校
定價　十五圓
送料　六圓
——聖書研究と日曜學校教材——
プロテスタントの三大主義　後藤光三
聖書とブルンナー……　長谷川眞
聖書と考古學……　J・P・フリー
人間と猿……　D・デワー
クリスマスの準備……　後藤光三
最良の教師……　杉本昇
キリスト傳……　後藤光三
創世記の話……　立石卯一郎
東京都杉並區堀ノ内一ノ三
振替東京四二六八三
日本新教連盟教會學校部

藥のことなら
（石井藥品株式會社經營）
石井藥局
藥劑師　石井明
阿佐ケ谷驛前

婦人服と子供服
洋裝生地・材料　各種取揃
明星學園指定
株式會社　二葉洋裝店
吉祥寺駅前通り
電話2666番